日記起元禄十一年二月
尽寛永十六年十二月　御留守四部

和書門
類　四二三八六
號　一八四
函　六
架　二九
冊

内閣文庫
和書
類　四二三八六
號　二
冊　九
架　九
函　一五二

内閣文庫
番號　和42386
冊數　29(14)
函號　152　78

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

歴代仕官録巻之四

御始之部

従元禄十一戊寅年

至宝永七庚寅年

日本政府図書

浅草文庫

元禄十一戊寅年

二月十九日

一 御持筒頭御役 本多大隅 百挺

与力五人 宇合 内弐百五十人 直轄

小普請与力五人 此被 添与力 半合

右等御組之同断 此方 御月番引渡

申渡し

右同十日

一 女房衆侍者 宛ニ 相添て 曲渕与惣
山村十郎右衛門ゟ申渡ス之

一 右衛門殿 松山十太夫ヲ以 長谷部市兵衛ニ太
田八兵衛ヲ以 御蔵立之品仕度旨 河内様ゟ申
来候ニ付 相州ゟ之 使者ニ付 其外 長谷部市兵衛
ゟ申上候 思召を以 伺候 明日可致 御用之筈
紀州 御番 被成候事 ニ付 右之通
差文十兵衛 長谷部十郎兵衛
長谷部十兵衛 御蔵御用 相伺候
十兵衛 松山之助
之御扶持 御番衆 御三家 御伝 右衛門殿 申渡

川口摂津守 御老中 御用 仰付之候

五月廿日

一 於御三家 安藤対馬守 川口摂津守
松平右近将監 御老中 本多伯耆守 立会
内藤紀伊守 申渡之
秋元山城守
太田備中守 安藤 ... 申渡
出被成 河内守申渡
同廿二日

一 於御老中 御用 仰付

馳走　小笠原　秋山市之丞

御納戸番　秋山新左衛門　両人　秋山助之丞

二丸火之番　平井新三郎

安藤内記家来　加藤新左衛門　四人　浅野采女

右馳走ニ付

六月晦日

一　御納戸衆　徳田三郎兵衛　中務へ遣

一　高見安太夫　村田小七郎　佐々木平助

此銀子ニ　御蔵奉行　松前治兵衛

御門番　加藤五郎三郎　中務へ

一　田代吉右衛門　高見安太夫

大久保勘兵衛内　三宅道意　切腹ニ付　御目付　右之者

御目付　被仰付　右之者

六月九日

一　松浦奉行　久貝文作　中務へ遣

右文作儀　久貝文作　娘ニ付　御申書之

御普請之儀ニ付御勘定方中田縫殿之所南
知行之以久保申上候左衛門仕舞
ニ御目見ニ而御菓子ニ而右之人参遣ス可申由
仰渡ニ付川口摂津守水谷伊勢守
申渡ス

六月廿二日

一 関東郡代伊奈半左衛門小普請入月番ニ付右被仰付
右御被仰付但馬守宅ニ而申渡ス

七月廿九日

一 御勘定奉行井上美濃守石谷備後守
川口摂津守曲淵豊後守長田越中守
申渡ス
老中安藤対馬守
少老安藤若狭守
大御番頭渡辺之西丸御番頭被仰付
随分之以右御被仰付是ニ而申渡ス

右御当地言上ニ付親へ孝行之旨
候之旨

一 於御前 御老中方御列座 松平伊賀守
殿被為召 其外十五人 別紙之通申渡之
天保三年十一月 中嶋東蔵之助
同 宮下彦太郎
大和郡山御領内 於大和国添上郡町人平兵衛親へ孝行ニ付
右被仰渡ニ付 白銀五枚被下之

一 勤方ニ付為御褒美 白銀御紋付 御羽織
勝部孫十郎 比企源八郎
親ニ勤方宜敷候ニ付 思召ニ被為叶候ニ付
御褒美 御羽織被下之 其外ニも壱人 御目付
御目見以上ニ付 白銀被下之
同 御勘定組頭 山口重兵衛
山城国町人平兵衛 御褒美被下 孝行ニ付
右之趣 被仰渡ニ付 白銀十枚被下之

今日御目見ニ御出之節ニ御座候而御膳被成
五節句ニ御礼ニ
御近習被仰付
先規者年頭ニ御礼ニ罷出候処先規中村御
ニ而御目見之節ニ者其身不罷出御内書頂戴仕候
御礼ニ
八月廿日

一 於御前御料理被下候事

大膳亮殿

今度御参府御作法之通五節句嘉定御年頭ニ御

一 於御前御座ニ而御参府之節ニ御住居

安藤対馬守　松平伊豆守

一 御目付七五郎上意ニ三郎御年頭年寄衆

老中御渡し

一 同廿八日

一 相馬公書山口源五郎一通中老衆

九月十日

一 神保之賢　堀内越前守　右者今日
大事之節御成共勤守可情出　思召候
重而未少史之子之情励可申者奉行申

同十六日

一 野々宮左衛門　長崎奉行　御役儀不届之儀有之候
異国之様抜荷物之儀　御制禁之処其外
前々来之様之上　抜荷物仕候而御禁制

一 総中村隠居　思召之儀有之　御役御免
閉門之　堀井兵部　御役儀不届者　川口摂津守
一 三好長次郎　六兵衛一子長吉　左衛門預ケ

十四日

一 人見六信　小姓組
松平若長　御免
一 人見六蔵　小川家頼ス　津軽越中
大膳亮隠居之子新書院番頭中書　御免

十一月廿二日

一 日蓮宗小湊誕生寺院　深川ニ御寺社奉行日泰　四十二
太田備後守殿事物之寺ニ大全ゟ相南部周防守殿
大事之節由布同寺隠居ニて御尋有之候ニ付
被仰付候処遠慮之分人相尋之御差紙を以
当月八日御寺社奉行小出伊勢守殿御
相伺之節ニ申渡候御吟味之上急度之取扱
御老中ゟ被仰付御下知之上可被仰渡候事

同廿七日

一 御役所石翁閑門被仰付　御広敷番頭
御普請奉行日野伊予守　大岡主膳正
大御番頭安藤飛騨守　御普請奉行
林藤五郎　御目付　御作事奉行
右之通被仰付御役儀被成下置候事

十二月十九日

一 御目付吉田五左衛門　御役
右之通被仰付候ニ付　御老中ゟ御渡之

元禄十二己卯年

二月七日

一 [illegible] 井上右京

[illegible]

一 逼塞 [illegible] 中村海益

海益 [illegible] 海益 [illegible] 中村海 [illegible]

海益 [illegible] 同 [illegible]

一 逼塞 海益儀 中村七左衛門

一 中村七兵衛　過意

中村伊兵衛子源八　中川七兵衛　過意

二月廿日

一 二条西洞院吉野屋　市之丞

大坂内挽町　播磨屋七左衛門

右両人儀　不届[illegible]御改之節[illegible]

自分逼塞

五月十日

一 於遠寺内[illegible]　松平之[illegible]

宇田又左衛門　藤田孫兵衛　[illegible]

阿部伊勢守右兵衛　久世大和守[illegible]

六月十二日

一 西郷源兵衛と申[illegible]

右ハ自山王祭礼之節　[illegible]

新組[illegible]

一 織田[illegible]　[illegible]

然ル不届成致方ニ而之其心ニ而不埒候也
御構無之ニ而御暇出候者ニ付申付
目ニ而遠島被仰付申候
一 右之人ニ者其 御法度被仰出ニ付差
之庄屋ニ申付右之通ニ付 右衆届 右之者共ニ
可申候分ゟ当座銀子被下ニ而申候趣ニ付 御月付
曲渕市之丞殿ニ而申渡候

七月廿六日

一 御家中吉太夫召連候同妻并 家来之
吉太夫召仕候 并二人致候吉之ニ而不届
之儀有之 妻子共ニ於年入牢申付 内
被仰付候

八月廿二日

一 御家老 当御家之御代官衆 奥御目付以
御免

九月廿六日

一 小普請村越越後守組 梶柳源之丞親類
住由右衛門を以親類共呈書差出仕
候ニ付 思召候段 御沙汰可有御座
旨被仰渡候 遠慮仕可罷出旨御頭宅
松平□□守殿 於宅申渡候

九月十六日

一 岡村七郎兵衛 同村助之丞 右両人之儀
御遠慮被仰付候 松平□□守殿

遠慮之 御免被成下候 松平□□守殿
於宅申渡候 右同断

一 御小性組 本多□□守組 長崎□□
老中列座 於宅申渡候 松平□□
御遠慮之儀

長崎□□ 御免被成下
御沙汰之上 御目見 御免被成下
御遠慮 御免被成下候

右之趣 小普請 長崎□□ 御免
松平□□守殿

迎藤平八郎列座ニ而召出八郎義ニ者　宗門中渡し
但右御老中御列座ニ而八郎へ申渡
高輪御屋敷之二之間ニ而御老中若年寄列座ニ而
取計ひ申候
十月廿一日
一 大目付安藤出雲守宅へ同役 寺社奉行御徒目付共罷出
大目付御座敷ニ而大目付中へ申渡候
松平中務様御屋敷ニ而御老中列座ニ而申渡候

右紙ニ以大目付へ御渡ニ付中務大輔殿御達　御書付
但御調書 松平対馬守宅ニ而若年寄衆前ニ而相渡
対馬守へ御渡候事
同廿七日
一 松平甲斐守殿ニ而　右之御達之趣御書付
右御書付御達之上御地頭へ可申達候
十二月廿一日
一 自分宅ニ而　御用之節相勤候

松平甲斐守　富田甚四郎　前田与兵衛
浅井源兵衛

一 開門　御免之節　月番ニ達之
大久保与兵衛　目付根来小兵衛　岩田市兵衛

十二月朔日

一 中奥御小性　進藤信濃守
右被仰付候節者　御次ニ　御老中御列座
寛之為　松平大和守列座　但し御老中

一 曲渕市之丞　大久保豊前守ニ而申渡之
一 大目付　差上之候　申渡之
此方御重職之者御目見席同席之者
金沢丁御目見之御用ニ　御目見席同席御納戸
右御役之御役之　御門ニ　申渡之
一 右之余今　同松平越前守　申渡之
今之与右付ニ而　御役所之御作法ニ
御こゝ之者　永井豊前守ニ　御役ニ　申渡之

一 粕糟源治郎江申渡候之覚
源治郎遠慮被仰付置候処此度御免被成候ニ付
中間共も遠慮申付置候処今度仕合ニ存候而両人ニ
渡し候様可申付候

一 源治郎料粕糟治右衛門ニ申渡し之覚
又源治郎前御預ヶ候ニ付差遣候様可申付候
料治右衛門遠慮ニ付可申付候
右粕治右衛門申付候 松原治右衛門

粕田被申渡候ニ付此右ニ有之候此之助ニ返事
申渡し

十二月廿七日

一 於粕糟治右衛門 粕糟源治郎ニ申渡
同 源右衛門
源治郎儀此内治右衛門ニ預ヶ置候無構
源治郎儀ハ先年親仕合候事ニ候
此度ニ而源治郎ニ可申付候
料治右衛門右源治郎申渡思召ニ付

親同罷出候 御禮無之

元禄十三庚辰年
二月十八日

一 井上大和守殿宅ニ而若年寄列座中被仰渡之覚
御使番 宮崎隼人 同断 御免
右者近年病身ニ付而致存寄之通逼塞 御免
御目見ハ不被仰付候

一 右ニ付父茂左衛門同所被仰付候節

一 宮崎茂左衛門 逼塞 御免 御目見ハ被仰付

二月十八日

一 御書院番頭 酒井紀伊守

同組頭 被仰付候旨

右者人御書院番支配江 被仰付

同十一日

一 浅草御蔵奉行 大御番一柳土佐守組 前川八源兵衛

右同断 松田源兵衛

右者人御役被仰付候ニ付遠山雇候得共 勤方無之

不念成儀在之候ニ付 思召之儀も有之 御番衆江

被仰付

御書院番筒井武太夫 同人 御番衆 同組之助

同人 二男 宮重小十郎

御書院番 松田庄之助

右之者不両男ニ付 御番衆江 被仰付候

将又御役ニ付 一石ニ 御番衆江 被仰付

右御役之儀遠慮 松前伊豆守

戸川備前守事、堀田備中守宅ニ而立身申渡之

二月廿六日

一 御書院番酒井出雲守組　松平十太夫
今度養子ニ申立候親類共ゟも不通ニ付
組頭稲葉兵蔵番頭之所ハ不申聞候ニ付思召候
小普請入閉門被仰付之
右於御老中御右筆部屋　松平伊豆守

一 保田越前守事、津田山城守宅ニ而立身申渡之
御書院番頭酒井出雲守同組頭林立心
右今度組之松平十太夫養子ニ申立候親類共
不通ニ付候処不念之至ニ思召候ニ付遠慮被仰付之
於御右筆部屋縁頬井上河内守　加藤越中守
右之御老中列座御書院番頭江ハ於ゟ申渡
但右両人ハ病気ニ付今日出仕無之
堀田備中守申渡

五月六日

一 大猷院様　厳有院様御法事ニ付御赦ニ
ニ而御免　小普請支配　酒井壱岐守組
阿部豊後守組被達之
野須与市　水野又八郎　戸田清之丞
根来源五郎　内田下鳥　中根十左衛門
浜年彦之助　秋山十兵衛　佐脇新十郎

九月廿九日

一 蜀士見書　新田宗意
右之涌ニ付ニ至而御成之時被召出
御目見ニ付御黒書院ニ於松平伊豆守
戸田山城守取次被仰渡之

十月十九日

一 内田下総守　山門西塔之内　正観院
服衣之上三衣着用ニ而十四寺中ニ被仰付
是迄谷中山寺中　幸門坊

達候

豊前国英彦山峯中 観教院当寺 昇光坊
出家之人
同国同郡輪村百姓 市右衛門
与兵衛
同国同郡段村百姓 源太夫
中右衛門

右私共宿預青山播磨守組進藤鉄五郎并新之丞
引渡播磨守申渡し

十二月十一日

一 右同人吉兵衛へ御引渡
細田兵左衛門組
三宅六之丞

一 右松平縫殿へ御引渡
同国同郡与兵衛組
三宅太左衛門
中山久吉組与太郎組
三浦十郎兵衛

一 同様之内播磨守手より渡之申
奉行手組之者
中島東右衛門
右同組之者
三浦平兵衛
町奉行所
小野沢三安

右新宿宿預ヶ之者共御尋之上松平縫殿頭中渡
諸事御沙汰引渡候之旨申渡し

元禄十四辛巳年

二月十八日

一 中ノ組久清見又助組　三浦十郎左衛門
方ニ是迄召仕候車渡人早々入念候様ニ申
者之義御家来宛ニ而召仕候得共御払遣
候ハヽ右之者養子ニ相極メ上今ニ而ハ勤奉公
ニ罷成候ニ付又御預ケ致間敷旨

一 新御番 加藤市兵衛組 三宅七之助

新番森川左近組　本多彦太郎
右之者父ハ太兵衛事浪人ニ而其身ハ召抱候処
右之者方江預置候処宝暦十年ニ付候内御仕置
ニ候得十二月ニ至無届欠落致候段不届ニ付
御預ケ遠島
一 遠島　浪人曽我八兵衛件　右太兵衛事
　同
　　本所之人　右之者　未年
草稀四谷御師　大坂弥二右衛門

一 松平大和守家来　右之者鎌倉次郎兵衛
大公儀江御仕置御仕置ニ付人共ニ付欠落致候段
一 山家浪人ニ而　之本源兵衛
一 丸亀[?]ニ而　大御番件　之本新次郎
　同人ニ　之木武之助
右之者共申合候と遠島ニ而[?]
同所ニ而[?]

松平信濃守中将為見舞 使者到来

申候

二月十四日

一 去年中公家衆御下向之節 御馳走

勅使御馳走人浅野内匠頭於殿中大廊下ニ而

吉良上野介ニ 小刀を抜切付申候

此節御留守居番梶川与惣兵衛 内匠を抱留候

則内匠頭儀 田村右京大夫江 御預ケ被仰付候

中将之元

浅野内匠頭

吉良上野介ニ意趣有之由ニ而於殿中刃傷

殿中於御座敷切付候段不届ニ付

思召候ニ付切腹被仰付 御仕置也

右田村右京大夫宅於同所 役人大目付検使見届

并内匠家来へ死骸申渡

同十四日

一 浅野内匠頭城地請取 赤穂城請取
　　脇坂淡路守　木下肥後守
御使番荒木十左衛門　御代官[illegible]日本[illegible]二千石
一 於御家老中從之之人
　　浅野大学
今度内匠頭儀吉良上野介江意趣有之由ニ而
於殿中不届　殿中[illegible]ニ切
付候ニ付不届ニ被思召切腹被仰付

御沙汰ニ付大学殿閉門被仰付　御預ケ
溝口摂津守　久留十左衛門[illegible]
申渡し
　三月十六日
一 赤穂城請取同日本[illegible]二千石代り
　御使番[illegible]　榊原采女江被仰付
　同十八日
一 赤穂内蔵助[illegible]　[illegible]江被仰付

三月十九日
一 御前江御出 越前ニ而与五左衛門今度御預ケ被仰付
右御礼申上ル為御目見 御前江罷出
上野守殿ゟ御使者被遣之

四月六日
一 山田喜兵衛御供ニ而罷出 御目見 金子拝領
御目見之上 御用人ニ而被仰付御礼申上ル 丹後守殿
江戸表へ参ル 同役八郎 立会

六月十七日
一 新御番衆 惣領共御目見
内藤十左衛門 池田長八郎
長八郎義御供 池田五十郎 同次男 池田杢次郎

七月廿六日
一 御小姓組 松田新五郎 松平治右衛門 被仰付
御目見 今般被仰付候ニ付 清田三左衛門
高松平次郎 出 御目見被仰付候

七月廿九日

福留兵部

幕府江　御断可申入候ニ付吉田遣申候ニ付而

酒井殿御取成被成候而御前御首尾よく候ハヽ大慶

依御取成所ニ御座候　御井上殿御許容之所

廣田与兵衛　源太郎殿被仰候　久留米十兵衛

兼時七郎兵衛判之旨御尋可申候

八月二日

小倉在番之儀被仰付候　横山式部

病気ニ而御座候得共[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

武具奉行　横山十兵衛ニ

親類[illegible]

十月[illegible]

安藤越前守　松平伊豆守　中奥小性衆
津田三之丞列座右筆衆申渡之

八月五日

新番衆　町野酒之丞
忠寿之下御名代被召江　御前江召出父幸宣へ
對馬守被仰付江思召候由被申渡之　右同
實子に被仰付江　御前ニ而被仰付　津田播磨守
深田越前守　久留十左衛門列座右筆衆申渡之

八月六日

御小性組小出大和守組　内藤求馬
酒之丞兼而御前江　御前ニ而御番衆之内酒井修理
御座候之御者御用被仰付江
思召候之旨江　御前江　右御番也
御座之候　西尾隼人
御機嫌ニ酒井雅楽頭・松平伊豆守・阿部豊後守ゟ申渡之
今度内藤求馬事御役として酒井ゟ申渡之

従夫御次江　白敷開門前　御待合也
大和保定所　安藤対馬守　松平伊豆守
出羽守上意　御用之上意　出座御渡之
八月十七日
一　御目見並　御先ニ而
酒井修理大夫　酒井左衛門尉　大久保佐渡守
松平豊前守　戸田伊豆守
同十八日

一　二丸御書院山之間江出座
同　時服之事　御奏者　大岡主膳
大久保加賀守　松平右京大夫　酒井河内守
御奏者番　御渡之　御待合
一　出座　御書院番
村越伊豫守組
松平大隅守　酒井石見守　山口甚五郎
大久保　酒井河内守　御渡之　御待合
二丸御書　御太鼓櫓

右之趣ニ而申渡ニ付別紙ニ帳面下ケ申へく

証拠ニ而相済候ハヽ済候ニ付

一　二度目書　相手方之文之旨　下山勘兵

右之趣ニ而申渡候様ニ申付ル済候ニ付得

ニ可申候

二度目書　相手方之事

右之ニ付候ハヽ右之内も相済候ハヽ申付

但門ニ　済候

二度目書　此方書之事

右之通ニ而申渡候付証文申渡下知状人之事但シ

相渡ニ付返答ニ済候

右者済之上　相済候之事　久十日済

済之旨之分ニ而済

八月大日

一　所之方之趣ニ付　御免無之候人ニ　済候

右之通御定方ニ済候ニ而右之通

一　御奏者　大友近江守

大目付　[illegible]

大番頭　[illegible]

御先手　[illegible]

御目付　逸見五兵衛　[illegible]

御右筆　[illegible]

御徒頭　[illegible]

御舟手　[illegible]

一　二丸御留守居　[illegible]

御広敷[illegible]　[illegible]

御小[illegible]　山角[illegible]

御[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]山[illegible]

[illegible]　[illegible]

一　[illegible]

御目見[illegible]　[illegible]

一 庭ノ間之表　松平新蔵　同　井上之丞
同 小笠原市之丞 同 矢部治兵衛 同 松平助之丞
同 菅沼長兵衛 同 菅沼半兵衛
大番松井三左衛門完之 [illegible] 立会中浜

一 御書院番頭 小笠原 [illegible] 佐野又六　酒井[illegible]
[illegible] [illegible] 長之丞
内藤紀伊守組　細川[illegible]之助
同 [illegible]長門守組　春田[illegible]兵衛

同 松平石見守組　酒井蔵之丞
同 小田切大隅守組　松平源之丞
同 [illegible]長門守組　丹羽三郎次郎
同 永井[illegible]守組　能勢源五兵衛
同 大久保豊前守組　[illegible]丹下
同 戸田淡路守組　能勢源之丞
同 牧野内匠頭組　森主税兵衛
一 御書院番 新庄大和守組　松平三左衛門

一 御書院番阿部志摩守組　青木新之丞
同 大久保淡路守組　戸波六之丞
同 松平越中守組　小野勘八郎
同 小笠原和泉守組　石川主膳
同 川口組　東条源十郎
同 松平佐渡守組　加藤小兵衛
同 酒井下野守組　戸川助七郎
同 酒井備後守組　安藤平七郎

同 大久保越中守組　猪子左兵衛
一 御鉄炮之方　星野新五郎　山田新丹
同 持弓方　山角今之丞　海老原弥五郎　雨宮三之助弥郎
一 御腰物方　小林源太夫
一 大御番之牧野飛騨守組　平野長三郎
同 屋代越中守組　本目与兵衛
同 三宅出羽守組　中山三郎次　三枝平助
一 表御右筆　杉田五兵衛　曽谷之丞　新家吉兵衛

一 小十人頭庵原市兵衛組　小林少之助

同 山本七左衛門組　長田源八郎

同 久保田又助組　小野喜兵衛

右相并之能も別而結構無之中将喜兵衛

右於間中済候

一 横田市兵衛　西見八郎兵衛

右者御番被仰付候ニ付披成候中之御

御式内々遣之候茂被仰付之候同断山之相ニ付

前段之轉武勤之相成候節御目見之上ニ而

右者へ御沙汰候

十一月十日

一 同日右者番頭丹後守御渡候　右被遠候ニ付

御沙汰

右之組之被之遣遣御用出来候　結構被下候旨

其段之申上候　右者御之付　思召ニ付候而候

之付候

一 御仕置伺書江 御書付差出候事
但為致候ニ付張紙之事
大番人御書付差出
御目見以上之者ニ而候得共御仕置中渡し
一 小普請高須丹後守組 与兵衛
源八郎儀父与兵衛 候ニ付
存生ニ付 在所ニ而中付候
致遊覧候儀 侍ニ而御咎被仰付ニ而 御預ケ

猶又 斬罪ニ而 被仰付
与兵衛儀 之段 源六郎
父与兵衛侍ニ而御咎被仰付ニ而御預ケ付
斬罪ニ而 被仰付 源六郎儀切腹ニ而被仰付
大名斬罪場御目付検使ニ而申渡し
一 与兵衛二男 之段 次郎 之男同 其之助
父与兵衛侍ニ而御咎被仰付ニ而御預ケ付
斬罪ニ而 被仰付 源六郎 切腹ニ而

御供ニ大番人ニ被召加候處被成御
令下御用番老中江御供ニ大番人其外十五歳以下
親類ニ御附
大目付松平備前守殿差出候處十郎立會
親類保科内藤主水正へ申渡之御書付申
渡し

一 御役御免無役

十月七日

御先手小笠原又左衛門

一 御小性組与頭 佐野石見守
一 同御小納戸 大御番之頭
一 御書院番頭御役御免無之付小笠原若狭守
御書院番 松平與兵衛組 松平若狭守 本間伊豫
新御番 依田肥前守組 中山大和守 河村又十郎
同 浅野若狭組 松平主膳
同内藤十五郎組 松平源十郎
大御番頭 大久保甚右衛門 家督 本郷殿

海東門座左衛門　出羽大納言渡之

但御書院ニ而御対面無之

十二月廿八日

一 杉原与市　新組ニ而被召出

新組ニ而被召出　之吉原家ニ而御下置

山内又八郎　石田勝之丞

右者吉原張人被為家ニ而被下置

内田与兵衛　根本源六郎

中根十左衛門　林山十郎兵衛

田村太左衛門　長井伝七郎　佐藤吉之助

元禄十五壬午年

二月十三日

一 萩谷田中内匠逼塞被仰付候所今日
右者延宝六年より村松伝蔵所預狩野十郎次御預
被遊候

同十六日

一 新給佐竹常中御渡之覚
御渡之源之助

大名衆親類書之儀ニ付而持参仕候ハヽ
封のまゝ就御役所ニ差出候ニ而無用
思召候ハヽ御返し候ハヽ可然候
御目付衆　御奉行之御了簡次第

一 又御目付衆一人充一所ニ可然か

一 大納言様御屋形御用御座候時長崎奉行衆ニ而御預ケ置
二階ニ而可被遊候　目付衆御預ケ置候
御目付衆へ出候

之自筆之旨

一 御老中衆ゟ御用之事御尋被遊候節ハ御判
御尤ニ候小笠原佐渡守殿へ御書付相渡候而
御役人衆ニ而御判物返之中御渡し候而御目付衆立会申合可
出候

御目付衆之旨

一 小十人御番衆御掃除　御判形可申付
大目付御番衆へ刀脇差御預ケ置候ニ而候

右之侍ハ両御番結構之両番頭格ニ付
一 勤番ニハ御免候
右者去十二月十二日於 殿中老中列座ニ而大和守伝之
御番入ニ宮崎七郎右衛門御役之御番入刀脇
隠居被仰付之
一 本多中務大輔 松平大蔵少輔 同忠三郎
一 松平隠岐守侍ハ両御番結構両番格ニ付被仰付
御番入勤ニ而去ル元禄中ニ被仰付也

一 侍御番入之事
右者寅三月之内御目見之上松平大和守殿
今月廿日於御城之御目見ニ而被下之
ハ両御番付御番入ニ而御免候
右之通御番入之節老中御目見仕候
表御門御番之節ニ立寄御免之
五月廿日
一 御番方 奥御右筆 戸田越中守殿

一 大目付衆松平対馬守宅江出役先迄御勘弁
中渡し
六月九日
一 御前腑十郎　同断料理通御礼米三重ニ付
右之御取次中ニ而御出席御差添
江御用番松平右京大夫御宅江被参
立会申渡し
同十二日

一 於松平対馬守宅　御目付　近藤平八郎立会
御小性組　三好市平　上同　三好伊左衛門
右之通江被仰付し
一 御先手衆へ達ス
市平事　三好平左衛門　弟　同　安之助
父市平病死候付　右之通江　被仰付候　跡目之儀
父同前之江　被仰付　家督　十五歳迄被預置
同十一日　於松平対馬守宅　御目付　御目付立会

右弐人之御子 御室ニ而中陰之内御預 被成
平八郎 増田源兵衛へ 立置

六月十七日

一 松平肥前守殿

御息女 六歳之鍋千代 二歳

父肥前守病身ニ付 御預ケ 毛利ニ大膳

此外御親類ニ而尾張中納言殿 御預ケ中陰之

立置月村此ゟ両府

六月廿二日

一 ニ而今年九ツ之 浅野刑部 丹後守殿

家来信生 両御預ケ 思召之 城地

御預ケ 石之 者ニ付 御預ケ

石之 御預ケ 御通之 御座候 以下

御門江 御預ケ 紀伊様御預ケ 尾張殿

右様之中陰之内 御預 浅野之 石尾張殿

立置

一 丹後知行高七万石　酒井新左衛門
西尾隠岐守　与力知行千石　酒井雅楽頭
右両人ハ前後ニ両人ニ青連判ニ而御流罪也
秋元但馬守ハ両人ニ而外様衆申付候也
一 右同人寄合　書本　御預ケ
右之人ニ相ニ而書状ニ而[illegible]内證[illegible]
勝ニ陰ニ而申付遣候ニ申付候也
一 右同人寄合　京国守代官　前田伊左衛門

御奉行衆　今村八郎右衛門　西山太兵衛
右衆中へ人ニ青一統連判仕候而両人ニ被仰候
後詰ニ而差遣候のこらす被仰付候也
右御法度之儀ハ[illegible]両御奉行衆
右之陰宮衆　御奉行衆中ニ而申付候
六月十日
一 丹後知行高七万石　宮津城　田辺城　被
一 播磨之知行高ニ付　[illegible]

一 岩村織部書 差上ル 松平信濃守

伊奈半左衛門 安藤次兵衛 御徒 御帳入ル 旨ニ候

右之趣ニ候

七月四日

一 丹羽和泉守家来 山田 外ニ壱人 甚之丞

富田清次郎 二ノ丸番衆 小谷嘉兵衛

上田喜兵衛 内藤安右衛門 藤右衛門

里見宇兵衛 上條清兵衛 其外ノ与力

村瀬与五郎 清田新兵衛 富田伊兵衛

梅村小右衛門

右之衆 浅野新兵衛 一両名 右之通 御手形

清水吉兵衛 一流 連判 仕り候 右両人ニ渡し候

川瀬新兵衛 右之判 のこし 可 被成 旨被仰付候

右ハ沢之衆 松平 清兵衛 深田新兵衛 御目付

右之趣 被申渡 候 以上 中 渡し

七月廿四日

一 浅野大学事
右大学儀閉門 御免 被仰付 安藝守方江 御預被
仰付候ニ付 今日大学事 浅野安藝守江
相渡候 其段御目付衆 右安藝守 罷越候様申
渡し 四月廿日大目付衆立合 御渡被成候
候段
七月十九日
右浅野(?)安藝守江

右ハ出雲事 家来不行跡成候ニ付 酒井雅楽頭殿ニ
御預ケ置候処 家来共強訴仕 在方ニ
配流之上 御預ケ置候処 此度亂気仕 其内今般
右者御預ケ被成候ニ付 大目付(?)仕 可被成候
候 御目付衆御渡被成候様申渡し
右ハ 出雲
家来不行跡成候ニ付 酒井左衛門尉殿ニ御預ケ
置候処 家来不行跡成候ニ付 被仰付候

万石ニ而雅楽頭ニも不断御出入懇意ニ仕候

被仰出候由御老中御加増被仰付御礼旨有之万石余

候　御座候

久世大和守殿　酒井雅楽頭

無人ニ成候由老中御加増ニ而先達被仰付候

ニ而御勤被成候ニ付而酒井雅楽頭相勤来候ニ近

御役ニ付候万石ニ而候ニ付候也

大和守殿安藤右京殿　稲葉美濃守殿

御同職ニ而候　土井(?)大炊頭殿安藤対馬守殿(?)

御免候

酒井左衛門尉

出羽国庄内城主ニ而往古より御譜代ニ而近

江守ニ成候而御城ニ罷在候ニ而御家来ニ

[illegible]

[illegible]

一 四月廿日 大久保播磨守　一色市兵衛
今度於御城ニ而御老中[illegible]被仰渡之
候ニ付思召有之遠慮[illegible]
大かかり[illegible]寺社奉行[illegible]
[illegible]

同十四日

一 御門 御殿番 小池[illegible]
[illegible]

同十五日

柳沢又三郎　同並[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
中[illegible]

同十六日

山崎[illegible]

今般新番衆被召出候ニ付
御小姓組入 追而可有之候
二分之数　　小姓組衆之内 候事
大御番衆組頭之御目付 御番頭
大久保 之御中渡し

元禄十五壬午年
同八月十九日　稲葉ゝ節番
一 土井甚助殿 御先手頭ゟ関所掛
久世出雲守殿ニ付 御自分番頭 御同心十人
御目付ニ 新組頭 御成し
同月廿五日
一 大久保彦左衛門殿 御役人 被仰付
御小納戸 同 新太郎

右両人町人ゝ前々之通御用被仰付候様書

御判物頂戴被成下候様被仰付候段

　　　右之趣ニ付　御代官坂本五郎

一 又右衛門へ被下置候通右御書付迄頂戴仕候

一 松平丹波守様　御家中ニ而相勤

御代官所之通御朱印御白紙ニ而判物頂戴仕

御之通候

　　山形町　中村伝　平右衛門

御代官所御朱印之儀御代々様御白紙ニ而被成下置

御書上候者有之　御頭取斗ニ而御成り可有之

御朱印頂戴候　御取計

右之御代官所之御頂戴　御朱印頂戴仕候　一通

御代官所御朱印之通御書付候而候

　　同人頂戴之節

一 右御書付　御代々様之事

御朱印頂戴候　御前之儀御頂戴相頼候

右之外御目見被仰出
被為召 於桔梗之間
右同断之者共御目見之通
大和守上意有之候處 大和守
申渡し 其後於芙蓉之間老中列座
一酒井右京亮今朝御用番宅江御呼出之上
右申之通
土屋相模守へ差遣し 申渡し

十月十二日
一相模守殿御役被仰付 御用番之節
大目付衆御呼出之上 申渡之
御老中被仰付候上 御侍(?)
平日之事(?)
御老中御用番 御渡し

同十三日
一松平山城守 御役御免 之上 申渡し

当春以来御廻米無之五拾両部中ゟ返
銭弐拾両ニ而渡し　村井淡路守殿ゟ相渡候御銭

十月廿九日

一　常陸国多賀郡[illegible]ニ而無宿[illegible]知行所
蓮沼村ニ捨馬在之此もの儀同八月九日[illegible]
流之何塩浜ニ其所ゟ住生江御預ケ
捨馬代金廿三両余拾五貫知行所常州栗原村
百姓与兵衛へ遣

右者去三月大和守同州重井村ニ而[illegible]
川原ニ而被取逃候馬之儀御届可申旨
右為御手当金拾五両被下候[illegible]

一　捨馬之下馬ニ而老ノ者ニ[illegible]知行所
同州川井村　新之丞
右之通

一　捨馬之儀ニ付所之者共[illegible]
[illegible]知行所
同州[illegible]村　名主[illegible]
[illegible]拾五両[illegible]知行所
同州栗原村　名主[illegible]
右返[illegible]

一 右無遅滞相済候旨 御用番江相届候
右同人江達ス
右付入用之品ニ付 諸事取計候様 御勘定奉行衆江
御普請奉行衆江申達 右之通一紙ニ而相達候由申来
御目付衆江 同人御渡候ニ付 被仰付候
右御作事奉行 松平伊賀守 保田越前守
小川勘定奉行 関東郡代 福田源兵衛
立会申渡し

十月朔日 但十月晦
一 安藤出雲守 御側 用人 御番頭衆江
御先手弓頭支配 御目付衆 御勘定奉行衆江
右之通申渡し
同日
一 岡田喜六郎 松平千五郎 福田長兵衛
右之人〻 御普請役 御勘定方之者 右之通被仰付候
中之者共 御入用之義 御勘定奉行衆 御目付中其外

一 勝間田之衆　河内源五郎　河西孫十郎
小河彦三郎　三浦弥兵衛尉　平井甚左衛門尉
山田藤兵衛　今井孫兵衛　岩谷勘兵衛
勝間田源五　此者共之無案内衆
右之五人　御供申下向仕遠江中村迄也
一 勝田　長之衆者子　勝田之衆
一 又長之衆成　御供申下向仕候　此人河源成之御為く
右此下向仕候　河村　勝之大無成

遠江中村迄也
一 之衆子　勝田孫兵衛
兵之衆子　吉川御服同心　今井源十郎
右衆子　平井源兵衛　右之衆子　山田平之助
勝之衆子　岩谷衆之子　勝之衆子　此之訪候
親之御供申下向仕遠江中村に勝之儀
返致中村之処
但勝之儀以之例之無十ヶ年来返致難ヶ候

右之通於評定所被仰付候 御目付 丹羽遠江守
角田同心 多門傳八郎 近藤平八郎
申渡之

十二月十四日

一 夜中故浅野内匠頭家来 浪士大石内蔵助
外四拾六人 吉良上野介本所屋敷江
押込 上野介義其外討取 上野介首取
其外家来討取 泉岳寺へ引取

其後泉岳寺内匠頭之墓所へ上野介首備
相果候 内匠頭ニ手向
右浪人共之内 浪士 仙石伯耆守宅へ 参候
大目付 仙石伯耆守宅へ訴

一 吉良上野介忰 吉良左兵衛儀 大名相模守宅ニ
右之通 被仰渡之

十二月廿日

一 仙石伯耆守宅ニて 浪人共 御預け 何れも

一 細川越中守殿ゟ御預

大石内蔵助　吉田忠左衛門　原惣右衛門

片岡源五右衛門　間瀬久太夫　小野寺十内

同喜兵衛　磯貝十郎左衛門　堀部弥兵衛

近松勘六　富森助右衛門　潮田又之丞

早水藤左衛門　赤埴源蔵　奥田孫太夫

矢田五郎右衛門　大石瀬左衛門

都合拾七人

一 松平隠岐守殿ゟ御預

大石主税　堀部安兵衛　中村勘助

菅谷半之丞　不破数右衛門　千馬三郎兵衛

木村岡右衛門　岡野金右衛門　貝賀弥左衛門

大高源五

都合拾人

一 毛利甲斐守殿ゟ御預

岡島八十右衛門　吉田沢右衛門　武林唯七

金森領分　村松七左衛門　牧野十平次

勝田新兵衛　前原領分　同　新兵衛

小野寺幸兵衛

証人

一 山中修理殿ゟ　御状

同十次郎　奥田重兵衛　吉田甚兵衛

村松三太夫　石川源太郎　早野新八

横川勘平　三村次郎兵衛　鈴木与五郎

証人之人

無人数ニ候間人ニ付人ニ而当年は指遣加之

右之通可被仰付候得共新地ゟ御咎可有之

御目付衆へ渡可申候　山中修理へ渡置申候

一 右之外者其身之御手形之御証文之御手形

只今者　御赦免被成下候ニ付取置候

十二月廿六日

一 松平紀伊守殿ニ而

一　寺内清之丞

此段喜右衛門と申者内々而鈴木平助迄与申合せ
捨文仕藤兵衛へ渡させ候而手侍ニ而何合
此段寺へ相渡候付　斬罪申付候也

寺内藤兵衛

父清之丞捨文仕相渡候付斬罪ニ而候　藤兵衛
右ハ其文渡候ニ付御預中付候也

寺内与兵衛

一　父清之丞捨文仕相渡候付斬罪ニ而候
左様之節渡シ候　右之次第其子共之儀
命御助遠嶋ニ而候

鈴木平助

一　内牧喜右衛門申候而寺内清之丞申合
寺内捨文渡し寺内与兵衛へ相渡候而候
斬罪申付候也

一　右之者共

鈴木平助
同
鈴木之丞

可罷出旨鈴木権之丞 同心組 鈴木宗作
父子江篤与吟味仕候處両人共御作事江罷出候
將又組合之者共御取締之儀中付置候
右之通諸用番御門渡辺小弥太郎安田主馬殿江
立會申渡し
十二月廿四日
一 同日於大之間御目付衆二之丸了一郎殿江
右之通爰 御先手御役成候 御先手青山組之
御付し 御目見以前ゟ遠慮被仰付候得共
前書之御番入之者共御免被仰付候旨申渡し
同月廿日清閑之間出候

元禄十六癸未年

二月四日

一 高家衆 表高家　吉良左兵衛

浅野内匠家来共上野宅江押入候節仕形

不届ニ付領地被召上　諏訪安芸守江御預ケ

候　被仰渡也

一 右於評定所大目付仙石伯耆守　御目付丹羽

遠江守　御目付安部式部　立会申渡し

一 浅野内匠家来細川越中殿ニ而元禄十六年未二月
宅ニ而御目付立会申渡し
一 浅野内匠儀 勅使御馳走之御用被仰付置
其上時分柄 殿中を不憚不届之仕形
ニ付御仕置被仰付 吉良上野儀御構
無之候 然処主人之讐を報候と申立
内匠家来四十六人徒党致し 上野宅へ押込
飛道具持参 上野を討候始末

公儀を不恐段重々不届ニ付 切腹申付者也
浅野内匠家来
一 大石内蔵助 四十五 吉田忠左衛門 六十三 片岡源五右衛門 三十七
間瀬久太夫 六十二 小野寺十内 六十一 間喜兵衛 六十九
礒貝十郎左衛門 堀部弥兵衛 七十六 近松勘六 三十四
富森助右衛門 潮田又之丞 三十五 早水藤左衛門 四十
赤埴源蔵 奥田孫太夫 五十七 矢田五郎右衛門 二十九
大石瀬左衛門 二十七 都合十七人

右者細川越中守宅　同月廿　荒木十左衛門

御使番久永内記　切腹申付ル

一　御徒目付　村山角兵衛　田村源之丞

三宅藤七　大隅源之丞　須藤吉兵衛　石田新兵衛

外御小人目付六人　罷越

一　大石主税　十六　堀部安兵衛　三十四　中村勘助　四十八

菅谷半之丞　四十四　不破数右衛門　三十四　千馬三郎兵衛　五十一

木村岡右衛門　四十六　岡野金右衛門　二十三　貝賀弥左衛門　五十四

大高源五　三十二　都合拾人

右者松平隠岐守宅　御目付　杉田五左衛門

御使番駒木根長三郎　切腹申付ル

一　御徒目付　斎藤文兵衛　海野小兵衛　三郎兵衛

石田与兵衛　牧野与兵衛

外御小人目付六人　罷越

一　岡島八十右衛門　三十九　吉田沢右衛門　二十九　武林唯七　三十二

倉橋伝助　三十四　村松喜兵衛　六十二　杉野十平次　二十八

勝田新左衛門 二十四　前原伊助 四十　同 新六郎 二十四

小野寺幸右衛門 二十八　都合拾人

右於毛利甲斐守宅 御目付 鈴木源五右衛門

御使番 斎藤次左衛門 立会 切腹申付く

一 御徒目付 鈴木十兵衛 鈴木治左衛門 中山十郎兵衛

小人目付 河田与十郎

外ニ小人目付五人相(?)添

一 間 十次郎 二十六　奥田貞右衛門 二十六　矢頭右衛門七 十七

村松三太夫 二十七　間瀬孫九郎 二十三　茅野和助 三十七

横川勘平 三十七　三村次郎左衛門 三十八　神崎与五郎 三十八

都合九人

右於水野監物宅 御目付 久留十左衛門

御使番 赤井平右衛門 立会 切腹申付く

一 御徒目付 勝野惣兵衛 三上新左衛門 富田又兵衛

小屋新八郎 河井与五郎 外ニ小人目付五人

右之通 右同所 出張 御用 相勤

同月廿
長田吉右衛門所払申渡し

一 同御家来久留島同清宅ニて申渡し

一 御用之義ニ付御家来奥州本庄様へ

於馬場出府 西尾村 馬喜八

右之者不届之義有之欠落致し右者早々中渡し

前書之者奉行所へ差出御仕置 伝右衛門
堂近叔

二月九日

一 大久保出羽守申渡

一 家来数人罷出候処ニ付人荒之ト申ニ而中越
相模八段吉見文下出多人相果候ニ付人居
西澤不届之段付而右之通相成候ニ付御仕置被仰付
被仰付之不届之者ニ相成切腹被仰付候事
右之通新左衛門宅ニ而石川弥兵衛罷出申付
安部之段付御使番立合切腹申付

一 大久保織部
御養父大久保出羽人を殺害不届之段付申渡不届ニ付

切支丹御穿鑿之者共上方江被遣候処

一 右之御用相済候付而、今日参府　御目見

被仰付候、御酒御吸物被下之、御暇被下之

右御用掛丹後守、大和守立合申渡

候之

二月十日

一 御書院番頭　神尾大隅守

同組頭　石川修理

一 大久保出雲守嫡子帯刀登城、御礼申上ル、御祝儀ニ付

被仰付、御奏者番被仰付、御目見、一同ニ献上之

御書院番組頭被仰付候旨、御老中列座ニ而申渡候

御役者御雇闕所ニ付被仰付也

大久保加賀守殿宅ニ而、老中列座、御役料被下之旨申渡候

同月付長岡左京亮、酒井修理大夫

同十日

一 大久保出雲守、御役御免、御旗本組頭被仰付

右被仰付候ニ付 但中飛脚ニ而差出候御書付也
差遣し

二月十六日

一 同月廿日 逸見平八郎 河野権九郎
御使番 松平又兵衛 様ニ付
右之人御殿ゟ被仰渡候ニ付 小普請入ニ 被仰付
一 小普請入ニ 御役ニ 致候様被仰付候 ニ付
二十八日 御書付

一 御次ゟ被仰渡候ニ付右旨致 逸見ゟ任之 小河之右衛門
右御書付御渡ニ付 早々 右之趣御普請奉行江
御書付可申渡し 同日付 右御書付差上 十一月廿日
右御書付

同月九日

一 右御役之者共御養子被仰付候ニ付
御書付之通被仰渡候様可申渡し

十月八日

一堀田吾左衛門事、御役被成候ニ付、御構被成候、右者
御加増被仰付候ニ付、宅ニ而奉書到来被仰渡候
御目付久留十左衛門・安藤式部相越
五月十二日
一小普請 大久保甚兵衛組
平岡伴
猪兵衛 十左衛門
右十左衛門儀、今日松平和泉守宅ニ而加増昇
中奥番被仰付候由申渡、右直之御請候由被仰渡候之上
御礼無之

一松平和泉守 加賀爪甲斐昇 中奥大番
右中奥番頭十左衛門ニ者、西丸伝奏御役被仰渡之上
近藤
右丹後守殿宅ニ而新参者衆中之旨申渡
同月十七日
一 堀田吾左衛門
右之者ニ付、百姓共病気ニ付而御役
御免ニ付、同人者ニ御礼之儀不及御明ニ付之

江戸ゟ御慶成御祝儀　拙者新蔵江持たせ
右者廿三日被下候而以之通申候
追啓之儀　御伺申也
右ニ付御家来衆伝蔵殿江御用紙上候
久留米太郎左衛門　青山下野守殿より
六月廿六日
一　稲垣栄代御伺
一　右之節御届之段申遣ス通り書付差出ス、書付を以候

御参詣之儀　思召候　御同道被成候由
牧野内匠殿
右之節十六日来候御人之ニ御届候而中達し候
也　被仰聞候　御届之候由　右之写御座候
之儀御用ニ付御返事も申仕御届候之儀
思召候御伺之事　右様之事御申遣
小笠原殿へ　御伺
右衛門式之書付　加之様御取計　御申候

別紙ニ有之ニ付申上候 以来右之通ニ候
寛保弐壬戌年 吉利支丹類族帳面ニ付
六月廿七日
畠山元悦
常之丞御役所ニ而 右之妻 つまい 娘ト宗旨
改ニ而高月右衛門殿 類族帳面ニ付候也
吉益猶庵
右之元悦不届者ニ付 類族帳面ニ付候 猶庵

元悦帳面ニ付候也
類族 元悦下女 元悦後家 とめ
元悦 十五才迄親類ニ付 けいる 申五郎
やゝこ 大目付 けん娘 その
追放 前方元悦下女 浜之宮村百姓 六平
元悦ニ娘一人 妻之母 同人下女 吉松 女二人
男子一人 同宗
大和國吉野郡前方ニ而元悦 所御座候 右之者ニ申候

六月晦日

松平豊前守預所
下総国西方村百姓
多古村 七左衛門
山室村 長兵衛
南中村 源兵衛
多古村 新左衛門
中村 助兵衛
船越村 久兵衛

御預所御代官手代宗右衛門
松平豊前守殿御預所村々
之者共立合
百姓共御預所村々之者共相持候ニ付
追放
中島御預所村々之者共
中村之者 追放

御代官之被仰付候ニ付
依之松平豊前守殿御預所村々之者共
[illegible]被仰付候
山室村 中三郎
南中村 中兵衛

松平豊前守殿家来
秋元[illegible]
大目付衆御代官[illegible]御手代[illegible]
出入之者共中村ニ[illegible]
右御評定所松平[illegible]中山[illegible]
[illegible]御立合中渡し

十四日

一 阿部ニ氏 伴与惣兵衛 御老之衆
御前之雖申立 封ハ 御侍被成候事 両方
右之段中納言殿へ申也
大和守殿 御前ニて 茶進上 中被成

十一月七日

織田御参上

并河内左近大夫 大炊頭 雅楽頭 并両人

右被仰付候也
大和守殿 安藤右京 松平伊豆守
相模守殿 榊原式部 三河守中ニ被成

同十三日

右衛門殿 御参上

常陸殿御出被成 山城守 御成 堀丹後守殿
酒井讃岐守 佐竹殿 右被仰付也
大和守殿 御同席 安藤 将監 柳原

八郎大夫へ之儀申渡し

寛永元甲申年　元和十年二月晦日改元

二月七日

一 同年六月九鬼大和守家来朱印頂戴之

今日於御城松平右衛門佐殿大和守家来朱印頂戴

渡之候、長崎奉行衆へ被仰渡候、右之段被仰付

松平右衛門佐殿長崎奉行衆へ之儀申渡し

同年七月七日

一 同前 二番目之通 荒木宗太郎

一 御中間 大谷市兵衛　河田文八郎
御近習 渡辺又次兵衛
相ヽ為勤来候処
右之人小笠原大江御預ケ
二月十八日

一 御花畑役次小笠原信濃守殿次　野田彦助
右御徒衆之内次　山田十太夫　御預ケ

一 小笠原右京様手代　鈴木源八郎　前田宗兵衛

一 下条長兵衛　鈴木源兵衛　渡辺源兵衛
神谷新助　市川七兵衛
右之者共御徒衆ニ而相勤候処御暇被下
松平下野守殿江御預ケ
四月五日

一 百人組　平山六郎
右者御役料三百石上ヶ候処被召放
但先年以来御徒衆ニ而御奉公相勤候ニ付御預ケ

御渡有之

一 大平六郎知顕 百ケ年之支 於当国諸役集
文字六郎 高橋背ク 共子孫二人 文 一所ニ
内藤主殿ニ御預ケ

一 右様候所 於 御用被仰付 安部式部
前将軍家々 三度申渡し

四月七日

一 宗千代殿被仰 山田之主殿 相田藤助

一 太藤助御預ケ之場所ニ 御逢之金子御預ケ
之ニ付御様子世話 仕候 相勤候
御預ケ被仰付候 宅中相 御用材 安田甚兵衛
就者御達候付

五月廿五日

一 前田甚右衛門御預ケ被仰付 御扶持六郎殿より御預ケ村
大原重右衛門 御預ケ御用材 大津源之丞
町田兵太夫之上立申之

六月二日

一 彦根ニ而 小笠原[illegible]
脇田殿江逢 篠山[illegible]之[illegible]

一 右之人日光御門跡御預ケ替ニ付 [illegible]之者

一 老中并若年寄衆被仰渡候処 [illegible]中越候

一 此外日光御門跡御預之儀ニ付 [illegible]

同九日

一 大目付 廣間ニ而[illegible]

今般[illegible]二条在番[illegible] 御目付[illegible]
相番[illegible]門[illegible] 今[illegible]
之[illegible]殿[illegible] [illegible]
松浦[illegible] [illegible]
松平[illegible] [illegible]殿[illegible]
之[illegible] 大目付[illegible]

六月十九日

一 [illegible]

一 御小納戸頭取ニ付 惣領 被召出候 御目付
関七之助ニ申渡し

一 六月廿六日

一 八木捨平
父 往之丞 御代官相勤 病身ニ付 御役御免 願之通
御代官 隠居 家督 捨平年若 親類 御預ケ
相続 被仰付 御目見 仕候
御目見 被仰付 捨平事 此段 御申渡

大御番 御書院番 頭 丹波守 申渡し
之 御同 相 勤 御役 御免 御目見 之 儀
一 中渡し

八月二日

一 御小普請 御奥 御目見 御家督
御医師 御番医師 御目見 御目見 御目見
御目付 御小納戸 御免
大御番 御小普請 御目見 申渡し

一 奥山安芸 関根源五郎・茶屋与五郎 悴平八郎
右者右之者江 御引し 差遣可仕旨
右初而成職仕候処 差出刻候 被仰付候中候
安永元辰 久留十兵衛 久松大膳 出候
八月廿七日
一 濱口右近
町人共今合申 請取候 請書差出可申
侍共御召仕 被仰付候 済之 断罪江御引し

外出候 九郎
濱口右近町人共今合申 請取候 請書差出候
右相加人ニ立 相願判可被下候 被仰付候
断罪江 御引し
濱口 ○○ 給
養子右近町人共今合申 請取候 請書請
判仕 侍共御召仕 被仰付候 被仰付候 断罪
江 引し 二度倍車大ニ遣 不相成様 可被申候

溝口市右衛門

溝口右近事諸書様判仕候付何候共ニ
御答ニ市右衛門事大猷院様判ハ御前様ニ而
公儀ヘ何様ニし太し仙田将監殿ニ申上候
可申達候

溝口右近ハ今日諸役付諸書様判ハし而相
申ニ御放免　七左衛門
何様相極し上海御相改而御申候

御ハ何回ニ　桃門中村七兵衛
大和銀御前松平伊豆守丹羽左京亮殿式部
前御老中御年寄中ニ而候し

宝永二乙酉年

二月十九日

一 内藤越前守組　長谷川伴之丞

悴内藤甲斐守組同心野沢久兵衛養子ニ仕度願候ニ付

伺之通相済候段相開門江申渡候也

野沢伴之丞

同心長谷川伴之丞実子野沢伴之丞　伝右衛門

西殿進致中村之也

一　追放　　安芸守様家来家臣　関内

同年荒地へ一番ニ付七之丞佐を手掛候ニ付　佐治

吉兵衛与申者追放ニ付　御手当也

久治十郎之事

同年堀田源右衛門同御茶屋ニ於て不埒成

佐治治ニ追放ニ　仰付也

候也　　堀田源右衛門仲間　松本平

右者御老中様御領御仲間　御内　源右衛門

仲より相談之久留米十兵衛長浜十兵衛之衆

申渡し

五月十八日

一　同月　松田（久ヶ）右兵衛　御代十七日

御成ニ付御左右不承御成案内之事ニ付

遠慮仕　御代官衆へ　御呵申渡し

同十七日

一 四月廿日松田出雲守逼塞 御免

五月廿九日

一 此時御前ニ而 松田源六郎

次日御殿ニ而高馬ニ付 馬之者ニ被申付

奉公人相勤候ニ付 御扶持方 閉門

ニ付 御扶持方御取上 松田伊予守預

被成候 長谷川中ニ預ケ被申渡候

七月廿五日

一 網之者四番小屋出入成候ニ付

被召寄候 猪飼ニ付 被申付

松平伊与守預ケ被申渡候

十一月廿五日

一 駒田十兵衛 家来 下様仕候

太平ニ付 御取上 被成候 子来中ニ而

手之間 仕 両人候 被 仰付

閉門被仰付候也

一 同浜田村　太田与兵衛

大御番衆定役浅野源兵衛同名新左衛門仕候処

不届吟味之上同浜田村名主共ヲ召出候

依頼之江戸追放中申付之

一 右之者共由緒与右衛門　大橋与兵衛

浪人浅野源兵衛

下谷山伏町九兵衛店　清兵衛　浅野源兵衛ヲ相手取候者　喜右衛門

右之者重追放申付之

一 軽追放　神田三河町源之丞店　清兵衛

追放　浅草田原町九兵衛店　長兵衛

重追放　北国中追放申付之　才兵衛

中追放　小人中之者共　浅右衛門

北小田原町名主　新右衛門

北小田原町　平兵衛

中追放　浅草三間町　長兵衛

南材木町一丁目　又兵衛

一 本材木町二丁目市兵衛店　吉兵衛　八兵衛
坂本町二丁目源兵衛店　長三郎
右之者共
一 右長三郎儀書役之儀市兵衛
右小沢兵衛江此人々ゟ浅草御蔵納
渡世ニ付御用ニ而御蔵役所へ罷出候
取扱不申親類書ニ而両人江
渡世逃去中申達

一 右兵衛之者共　渡辺甚兵衛　小沢伝兵衛
渡世ニ付御用ニ付此人々へ申達
渡世之御用之儀代官御勘定両人ゟ差出候
右之者両人ゟ御用之儀申付候
一 右之者小沢兵衛之儀御役所渡世
右之者十五日逃去親類ニ而申付
一 渡辺兵衛儀右之者　差出
右之者右之儀申付候　申付

於例日罷出候處 御老中
列座申渡之

十二月十八日

一 桐之間番書院番組頭 新井九郎三郎
右之者大番被仰付之

同十九日

一 桐之間番 佐久間太郎七 神田織部 石川仁左衛門
右之者大番被仰付之

十二月廿四日
新庄縫殿

一 元御目見之節町奉行所被仰渡之由書付
其節御役被仰付之段者 之事
役之町人以御書付被申渡候
諸事之 御用金 御手形 牧野大和守
丹後守殿 堀田采女 御老中根岸之節
立會申渡之

宝永三丙戌年

正月廿六日

一 吉良左京殿領分村々御役被成候御免之如
　信州ニ遣之

二月十五日

一 御書手入用御仕置
　御役 松山治左衛門　山口藤五郎
　奉行 松平采女　曽田治兵衛

笹田弥人　須藤主平蔵　石尾文平

右之輩ハ同心ニ付、仕舞之節中ゟ付添、人数

萩原七兵衛・石川与八郎・西尾平四郎・河原右衛門

明寺地江参候御用ニ付、近中道ニ罷出候

中々ゟ有之所御手前仕舞候所ニ御支配方大勢人

御役事聴書ニ〆筆取仕候ニ付手近被召出候

一 萩原七兵衛　但同心　今井丈右衛門

小笠原長八郎　池田政之進　山本主馬

馬場市之丞　喜多野某　馬場主馬

今井六之丞　小池新左衛門　高橋市之丞

須藤七兵衛　岩佐長右衛門　三宅主膳

田中伝之丞　遠藤安之丞　武田長兵衛

東三之丞　竹本三郎　服部七郎

村田兵左衛門　横須賀市之丞　今井丹之丞

小林主馬之丞　平野利右衛門　貴志十蔵

中村政之丞　岩瀬十兵衛　新井政右衛門

岩瀬市郎兵衛　加藤又兵衛　森嶋作兵衛

清水源兵衛　吉原安兵衛　平　九之丞

田村伝兵衛　平右兵衛　河野平七郎

藤田源兵衛　早川六兵衛　秋山平介

石原武兵衛　新谷ハ病気ニ付無之欠ハ七人

右同　頭中ニ而右両所寺近藤下野守殿

右御手伝之面々之者相勤候丹後守殿

相勤候面々長崎申渡候

二月十九日

一 小普請組同心萩原七郎兵衛組同心

寺近藤　今井源七郎

荒谷六兵衛　中沢猪平　小坂吉助

須藤五右衛門　山崎如兵衛　石田長兵衛

村田彦八郎　中沢長兵衛

一 右之者共頭取被仰付候段申渡候

右同之通申渡候

二月廿五日

一 酒井内膳　宮城甚五郎

先達而御用地ニ付所々江罷出御普請成候方

不念ニ思召候ニ付

御目見遠慮申付　酒井雅楽頭被相達之

切腹被仰付候ニ付申渡　御目付　久留十左衛門

御免之旨申渡

二月十二日

一 内藤甲斐守　石原新五兵衛　小林半七郎

岩瀬源一郎伝来　御用御徒頭　安藤兼蔵

右之通被成候ニ付　御褒美被下之　被仰出

松平之頃之通申渡之

六月十八日

一 大久保之儀御役成候ニ付　酒井雅楽頭出府

被仰出　御免之

七月廿二日

一 御旗本 山名海之丞 河内与十郎
之處右之二人義
右者御番中御役所ニ付 當番被入候 御役所
之御并御役所江申付候御申渡し
八月十四日
一 異国船之義ニ付御書 年寄 長崎
御領分之者宜様子承り出候ニ付 年寄中
諸國浦々御役所 右之趣

右之段申上 右次第 無之旨
右之人揃ひ可申候
一 町人御役所之儀 年寄
右和泉宗 権田源十郎 取締方 長崎
出精相兼候様可申渡し
同十四日
右御免
右之通御目付以上御礼相遣し者

了簡之通可被仕旨両人江酒井讃岐殿ゟ
申付之候

高橋宇右衛門

右者在所ゟ御機嫌伺ニ付江戸表江罷越申度旨相届
候所遣候ニ付申渡之候

小笠原七郎　牧浦之儀

右者今度之儀御番替之内ニ付而御役目申付候
両人共任其意ニ付遣被成候　申渡之候

右者御番替ニ付御暇被下候由承届候　大坂
両人共ニ白銀七両引渡申候

銀百目

一　遠州　右同苗　小笠原平七郎

右者御城代被仰付中務殿ゟ相届候ニ付書状遣有之候

江戸表ゟ御機嫌伺ニ而使者遣有之候　御状下申也

右者書状之段両人江被申渡　遠州中務付申也

一　戸田孫十郎　中務　右同苗　遠州

一 芦沢源一郎宅江為見分致候付 近藤
有之者共 村松喜左衛門 大沢源一郎并平井差遣
之段申上候処 右之通可仕旨被仰渡

一 石黒太兵衛 石黒彦三郎 同安治郎
小笠原七郎 小笠原仁治郎
右近藤江 御用有之ニ付 近藤縫殿助 同断

一 小笠原孫兵衛 幕府 浅之丞 壹岐
同人 中村弥兵衛 新納長兵衛 村田孫兵衛

村松喜左衛門 一両人 深之丞 永井八郎兵衛
御持物之儀 笠原彦之丞
右之者共 之人 御番所 役儀不可相勤候付 右之
通可被申渡旨被仰出候 申渡候
但 右十兵衛 御目付 近藤 斎藤長三郎

一 右新役儀 仁右衛門 丹羽丹後守 差遣候
左之通申渡候 筒井政憲 右之趣申渡し
八月廿九日

一西丸様より御内書
為御勤之西成　大沢右京亮　高家ニ為御使　長橋
局高家衆之内より上京　佐渡守吉良右京亮相勤之
其上御所中へ伝奏を以御進物被成御勤之
被下西丸様より御使以之進物　被遣之
大沢右京亮
将軍家之御名代高家衆之内より　長橋局へ御
内書公家衆使者を以御内書被遣　右京亮

両伝奏へ被遣之御進物何も有之
右京亮各務寺　大沢右京亮へ被遣之
其高家衆之内より一人右京亮内府中へ伝奏　吉良
右京亮被遣御所中相勤御進物中被遣之
御返事　御返事被遣
大沢右京亮　右京亮相勤御進物中へ被遣之
御内書被遣右京亮　御所中被遣之
右京亮高家衆大沢右京亮御進物被遣　右京亮

大々丈夫候得共中ニ付差遣候中付ハ無之候
差進献中付候也
二之様御座之處
右者御家老衆ゟ相勤ニ付去ル次之御務
家老ゟ差遣被仰付候由承候間右之通
主殿殿中合候之節書付差出候趣御座候
大之殿中合候ニ付御用書差出候旨承候節
御同役衆ゟ書付之趣承知仕候

差遣仕候旨申達
右者御前ニ而様子相伺候処格別之儀ニ付表御座敷ニ而
一 右者御差図之儀相伺候様承知仕候
九月四日
一 御役所中山ニ而御奉行文書差出候様御座候
一 此方御用人御伺之上手紙を以差出候
右之通御用番相済差遣候様承知仕候
右御伺之処差遣仕候旨申達候

任其意可申渡し

一 桂昌院様御忌事ニ付　九月廿九日

六郷外記事同若狭守江差扣之候へし

十月四日

一 御鷹御使役旨早速罷出候 御役代者之く

無願ニ而去ル年御番代ニ而相勤候者ニ而奉公ニ

未被為頭之候 御役代ニ而致是之其上中を

可為之候へし 御請書可致 ・・・ 差上

可被仰付 御勘定奉行 町奉行 評定所 御目付

為其以後差扣可申渡し

寛政九丁巳年

二月十日

一市島真之丞　五郎左衛門　五郎作殿

五郎平助　五郎之助

又市ハ真之丞　又三郎　鍋浮田又兵衛

被成候ニ付而書出ハ月成ニ付而御候成ハも又

五郎成市ハ真之丞仕附ハ被成五郎ハ従ハ

被成候ニ付而御構之ニ八月十八日

梅方新兵衛 大目付松平久兵衛 御手前 丹羽
左京殿 御目付 安藤新五郎 荒井清兵衛 列座
申渡し
三月廿七日
一 御書院番 何某 一通
大久保与右衛門 當国信濃之様 進上
仰之一通 御渡候 御書付也
大目付中列座 大目付 仙石丹波守 御目付中出座
出座ニ而 被仰渡 御條目 切封中封
四月十日
一 新番之面々へ
御条目 御渡被成 御目付中 [illegible] 申渡
御番衆之 [illegible] 御渡候 切封候 御条目 相渡候
渡し 御書付 御書付也
一 御番之面々 [illegible] 之上
御目付衆 [illegible] 申付 退散 [illegible] 付候

一　新寺ニ付入寺之儀被指留
右者先達而新寺之儀、宗門ニ付新寺古来より有之
中寺若又ハ迎接不可有之
一　三ヶ寺之儀新寺可為無用之、又自然不得止事候ハヽ
右新寺建立之節、地所除地向寄之者有之候ハヽ
御役所ニ中山寺可相届、尤右之趣可申達
別段申渡之
七月廿日

一　迎接　法事之節　無縁　可海
祖廻　出寄　柳営　受今　上座　白
一　開門　右之　檀家　森若　法蔵　法要
右之ハ触頭ニ可申遣候、尤内意之
月ニ尊ニ差揮法事ニ候御領寺ニ可届
旨ニ右之趣ニ法事寺社奉行ニ相達候
右寺社之頭門月ニ之段申渡候得共無之
法之寺相済申候

八月十三日

一 出来候 御国同様ニ紀 小庵方へ参り候等 一顆ずつ
大夫参り候 就而ハ十々ノ中 三之宅 所望致し
御覧被仰付 十三日参 御請候 仍付参
大之丞 老中 列座之間ニ 御目見 被為 仰付
被為召之處 立合ニ而申渡し 同備前守 へ切渡

同廿二日

一 種田鹿造 相変無事ニ付 願之通り 正月 老中 遣之

一 天野伊之進

九月四日

一 当年 之人数之儀 同意之旨
大目見 一 出来候 海辺之儀 御勘定奉行 中村 伊賀
右者 罷出 被 仰渡 御判 を 兵
海辺之儀 被 出来 一 目見 別之 御役 八丁目
然ル上 而時 御役 御書付 合 御勝手 ニ而
改正 御勘定方

一 手入以急度御書立之通相心得、一番手御本陣ヘ
右之趣可申付候
一 御本陣ヘ寝事一番手御本陣ヘ
可奉伺候 御注進
右之趣可被申付候、御人数之儀ハ追而可被仰候
一 御本陣ヘ 如前 御持参之、御手当之儀ハ
右相済之候 大目付相村御目付御使番
急度被申付 年寄御本陣ヘ 加番ニ而 追々罷出申候

十二月二日
一 御籏本御目見之儀、老中御成被申付、御目付
御渡之旨 右被仰渡之 御能之 右被申渡
同人御目付 被申渡 候義

寛永丙戌之年

同正月十二日

一 御花畠番 櫻ノ間詰 松田又四郎

右者父逼塞小普請入ニ付 被仰付

同十五日

一 町野縫殿助

右者御小姓組之節 勤方未熟ニ付

以来御役 閉門可被 思召ニ候

小笠原内記は 御用返書仕上ヶ候旨申付候
掛ヶ為申候 久世大和守 加賀爪甲斐守列座ニ而 掛ヶ申候
一 渡し 四月廿日 御用番 稲葉美濃守殿へ 懸ヶ申候

卯月十日

條々 御請

一 今度御成候 御中上 御請物ニ 御請之 切手ヶ 御請付
而も 金子之 相渡 御請人 之 御請取ニ 御請代
而 御請ニ 候而 之者 御廻し 御渡し 申渡候 御請申也

一 中々人 久世大和守 長谷川 源左衛門
條々 御請候 今度の 御成 之 御中上 御請物ニ 被仰付
源左衛門 御請事ニ 御請 御請事 源左衛門 宅へ
而 金子 相渡 御請代 御請取 候 而仕 御請人 之
而 金子 之 仕 之 御請取 之 御請物
申渡 之 御請 御渡し 源左衛門 返書 仕上 之 御請
大和守 御請 之 四月廿 日 御請取 御請 申 之 御請
相渡 之 御請 四月廿日 大和守 御請 御請 之

右御申渡し

五月十六日

一 大沢右京亮殿ニ付 酒井備後守殿ゟ御渡し

御持筒頭同人組ニ而竜野七郎 小沢勘兵衛

右被仰付之

同廿六日

一 遠藤備前守殿ゟ書付を以 新人 松平豊後守殿

差紙被下 御持組御持筒 早川新太夫

仰渡訖之旨ニ而申達し

七月廿二日

一 御次米御組頭付 御免被仰渡し

大目付 安藤弾正少弼 御普請奉行 黒田豊前守

御持筒組頭 阿部主水 山田半四郎 長谷川周防守

御先手 大岡求馬 三ケ所 佐野安八郎

御目付 牧田市之丞 御書 安井平十郎

御留守居 増田與十郎

太田備中守 御用之 取次是迄之通相勤候

越中守殿御書付 列座中渡 右御書付松平右京大夫

御目付 大岡 ……工藤 海野 相渡之

七月廿六日

一 松平越後守 松平伊賀守次第ニ遣之 松平伊賀守

松平紀伊守殿組 御徒 御名代 相勤之

尾張中納言殿御使者 候石兵衛

右之人 揚座敷ニ

一 伊賀守江被仰付 松平縫殿助 揚座敷ニ

太田備後守 戸田采女正 大目付 松平丹後守 町奉行

松平右近将監 石尾河内守 御目付

大岡伊豆守殿 村瀬伊勢守 立会中渡之

同廿二日

一 西尾隠岐守家来 二人立合 湯原兵庫

内藤主膳 揚座敷ニ 遣之

一 十月廿二日

一 御持組 仙右衛門

右者鳥遠島ニ而妙知院養子 奉公之月十日仕

候之處甲府江申付之節寺内年

去戌年赦免被仰付 閑門被仰付

一 右之者上顕仰之乃趣 御書付被仰付

十月十七日

一 岡田長五郎 櫻井長五郎 遠藤之丞

御免十二月

右ハ去巳月十七日夜福田ニ而被殺候 擒ニ而

當人御座候 右者申付候 遠山

御免被仰付 聞合候迄 右申達候 御免十年 山本

又十郎 同人 右申渡 當人共 右之者

兵衛 右申候 右者 右御 渡し 言上

進放 申付之也

右町兵 悴同姓 相成 右御付 之通十年

之段 右之御 立候 申渡

十月廿九日　高山合着

大市中町へ出し銭宿屋御用ニ而候迄

かゝ両所手形付判形中付之也

寺村惣五郎

高山合着ニて御下合両所付判形中付之也

大和御役町奉行丹羽与川上井加藤大也御

御着至雨中候し　大同断也

十二月十二日

御注文　長谷久三郎

大目附組ニ青ニ被申付候旨被仰付候ニ付候し

過書之　御中何　御三蔵銭付候定銭等付候ニ付

大也金銭知行被付下候ニ付候し　大目附ニ青

御手代之両所付給料賃金被下候し

四月十日付何ケ年限被下候ニ付三ケ年

宝永六 己丑年

一 准后使御見舞人 前田家江心事　二月十二日　伊中宮使

右門ニ而御不例ニ付 大目付松平石見守

御目付久留十左衛門 従御年寄 家来衆

被差越候ニ付 被仰 承届候

同十八日

一 前田家来共 中浚 去十二日松平誠山

一　織田淡路様ニて　殺害ニ訳ハ其上ニも有之候
右之者ハ　切腹ニ　候ニ付　御不届ニ付而御免
様御淡路守殿ニも御様子御尋御座候得共拙者
申渡ス

二月廿日

一　此度御法事ニ付　大赦ニ而被成御赦免候ニ付
随而百姓ニ至迄
公儀ゟ御仕置ニ被仰付候ニ付御自分ゟ可申罷越候

対面ニ参り兄弟ニも候ニ付　何卒ニも可申
ニ而も　親類父兄ニ而ハ　左様ニ人
此度ハ　寛兄ニ可申付ニ而ハ御座候

同十九日

一　此通書付ニ而ハ　拙者書付ニ而　可申付

一　父親類共ゟ此紙兄弟ニも兄ゟ親類共文ニ可申
申渡ス

書付可申渡ス

一 親類ニ而も有之候ハヽ元無用ニ而も勤候節ハ自分
壱人ニ而中ニ寺社奉行所ニ罷出候共
其向ゟ書付ヲ以相届候ニ付御達

二月十二日

一 永井伊賀守殿江左之書付
御書付 酒井因幡守儀内藤紀伊守殿へ
御用番ニ付以後ハ安房守ニ御役替被仰付候
御役御免ニ付御代り御役被仰付候ニ付
右之趣心得可有之候事

御付ニ而御渡遣ニ相成候ニ付御達

四月十二日

一 御書付 若年寄衆御使ニ而御役替ニ付
候ニ付 大目付衆御渡ニ付 大目付衆御渡候
病死ニ付御役御免御渡ニ付申達候

同廿日

一 御書付御渡 大目付衆御渡ニ付 差遣候
同 大目付御渡ニ付 差遣 御書付

御飛札表御老中　御月番久世大和守
大和様被仰付候而右之趣大久保出羽守
殿へも申達し候　大島右京亮へ外様
六月廿四日
一 先年牧野若狭守殿　右同十兵衛預り地
越中守殿へ　御中将達川浦様御達勤仕候差上
御挨拶ニ及ヒ候
七月十八日

一 富田左京亮同伴同対馬
大久保様山王御屋敷御預り之様承候
時ニ付御用之上御免ニ被成候御沙汰
御付之者御内証御達之処大久保加賀守大久保
出羽守殿御達ニ候加賀守返之旨
能々申渡し
一 左京亮件富田対馬守又右衛門御対面之節
右之通御心得被成候様申達候

御様子ニ付親類共方ニ引取不申達を以ニ付
右者同様世話ニ而御座候 右之進方ニ而預り申候
別段養育方之儀并諸事入用ニ相成候
大阪父親両御出生無之候ニ付御奉行中江被仰渡候
八月 同日
一 護持院隆光ニ一家智積院江御奉書
二通御渡ニ付書付
以上

一 護持院隆光儀去ル戌十二月小池坊江被仰付
今般小池坊事隆光江相願候ニ付智積院ニ
時ニ護持院之義ニ而二代小池坊之節
被仰付候ニ付護持院并長谷山之儀被仰付
御手ニ而御座候 智積院小池坊長谷山牛角之儀ニ
付御護持院之通知行拝領如何
于時被仰付候ニ付当番御老中方江護持
有之候ニ付右之書付智積院江渡ス

一 上野迄浚明院様御霊屋江惇信院様御霊前江
御参詣 且又浚明院様御霊屋江御手向
惇信院様御霊料之儀
右之書付惇信院様江御手前
但惇信院様御霊屋御霊前七日之儀
浚明院様江事書白銀御前江御供
出席御使之仕儀立御目見之上御手紙
付候処[illegible]

九月十九日
一 酒井七郎兵衛中務 若年寄衆 御手前
御手前御同様之義 御内々御座候
右衆中御老中衆御用之仕 御目見御座候
若年寄衆中御用之仕儀 御当番御座候
手紙御用御手前御同様之
御目見之御事 御用御手前御書候 御用御座候
大和守殿 大目付村井御用書 御手紙

松平主計頭御用番相勤候処右ニ付土屋相模守江
引渡申候事
九月朔日
一 小笠原之様持参仕松田九郎兵衛御奉書
松田与兵衛事松田奉公御用御免被成
右者此度申渡候事
十月十六日
一 御給之番藤兵衛御帰参
一 此度金子上納之儀右為御用御家中江被仰付候
相改候処右銀子御請御座候佐野主殿様
右事也
一 御鷹御用何村御鷹匠同斉助
同三浦新五郎右之人御鷹御用被仰付
大野与兵衛御用御用
右之通申渡候
十一月廿七日

一　御書院番杉浦飛驒守組　長谷川越前
江戸近辺ニて青鷺鉄炮ニて打候由
去ル七月御成之節鉄炮を放し候由
令存鉄炮ニ而打留候処百姓
共等殺生之者ニ而鉄炮打候段
不届ニ付遠慮被仰付候処御免被成
御遠慮被仰付候
一　同組御書院番長谷川越前与力

同人二男同苗三郎
父越前ニ相伴候而同苗三郎儀も
父一所ニ殺生ニ参り同罪ニ付仰付之
一　組之者御書院番之者
小普請組之者鉄炮ニ而殺生ニ参
大番長谷川越前中合殺生之者
鉄炮持参候段不届ニ付中合殺生之者
不届ニ付被仰付候　御免被成御遠慮

一　関門江　御役人　右御法度之通相守　杉井

次郎右衛門　丹後守殿御届申　年寄共立会

天草御番所へ差出　候

宝永七庚寅年

二月廿六日

一　御奉行所御用ニ付　相馬小次郎殿御通ニ付　御上

御家来八兵衛江　御改被遊候

江御役人相渡　杉本五郎右衛門殿

三月九日

一　御用ニ付　年寄共立会　加藤文右衛門　牧野備前

杉本御立会

右之趣被仰渡候趣相達候上ニ而 此節此旨可被成候
一 内寄ニ而御老中方ニ而者 右之趣申上候様可申渡候
被成候 尤右之儀
御目見之通被仰付候 右御老中之御渡書付也
中候へし
一 同月朔日
一 右同断御役人
御目見之通 御免

五月晦日
一 小笠原志摩守殿御渡細工被成候ニ付進
内藤人之儀二方ニ而 頭書之通被仰付候 依之
捨文仕候ニ付 任所之上 頭之通可被成候
者 其外不届候 願之通家督被仰付候
伝 御座候
一 御ニ進伴加藤一学 同吉之助
父御之通 右御代替被仰付候

以御大将様御披露被成下候様ニ頼入候事ニ奉存候
以後之御中ニ而相済候得共左様ニ御座候得
町奉行様被遊御尋候得共可奉願候
而右之御例ニ候様ニ御座候

右七日

一 右御掛り様御越被遊 山田治兵衛
大岩年迄右住居家来庄屋殿茂大勢ニ候
流大勢ニ而今般相違無之候ニ付右様御座候

一 年々大小之義相掛込無之ニ付左様ニ而御座候
其之内住居ニ而御座候 右達 其外之方々者ニ
而右御附急度可被仰付候得共御座候
治兵衛ニ而之儀也

一 治兵衛義当年山田治郎兵衛今般見ニ付出入
大岩年迄右住居家来庄屋御掛り様へ出入
今年迄無之ニ付相願候義ニ御座候得共右様被仰付
治兵衛ニ而相済候ニ付大小相済候ニ而御座候

右縁之由御預候様ニ此段申付也
山田治郎兵衛家来 大橋重左衛門
根来和泉守家来 広瀬藤右衛門

一 大目付へ 申達之

大和守殿御渡 大目付 松平大隅守町奉行へ申達之
御目付 村瀬伊左衛門 渡之 御書付

十一月廿日

一 御役儀 石坂関内
黒鍬頭目付 田沢吉兵衛

大目付へ 渡之 御目付 本多源兵衛

十二月十二日

一 松平治兵衛為上以 松平内記申付候
松平和泉守家来 中西木右衛門 申付候
御徒目付 古川左衛門 申之候

申達之

国立公文書館
National Archives of Japan